

# 経営関連学会協議会

## ニューズレター

(2022年6月)

### 目次

- I 理事長挨拶
- II ニュース  
英文ジャーナルの刊行
- III 活動報告
- IV 決算・予算

### 【I 理事長挨拶】

#### 経営関連学会協議会の今後の活動について

理事長 上林 憲雄

当協議会の理事長に就任し、早や1年以上が経過いたしました。この間、経営関連諸学のますますの発展を目指し、私なりに努力を続けてまいりましたが、広義の「経営学」という学問領域が、社会的に有益で必須の学問と認知されるまでには至っていないとはいえず、私自身の努力不足を申し訳なく思っております。とりわけ、昨今のロシアによるウクライナ侵攻の愚や、知床での遊覧船沈没事故の惨状のニュースを目の当たりにするにつけ、経営学をはじめとする社会諸科学の無力さに苛まれておる今日この頃です。

さて、当協議会は、日本学術会議と密に連携をしながらその活動を進めていくことになっておりますが、過日、日本学術会議経営学委員会の中に設けられている分科会活動のうち、「経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会」の最終報告書がまとめられたことを受け、今秋にもそのお披露目を兼ねて、日本学術会議経営学委員会と共同でシンポジウムを開催することを目下検討いたしております。(報告書は、日本学術会議のホームページからご覧いただけます。)

周知のように、経営学領域は経営学(狭義)、会計学、商学、経営情報論をはじめ多種多様な領域から成り立っており、その業績評価に対する考え方や方法も均一ではありません。ただ昨今では、いわゆる海外ジャーナルランキングに沿った形での外形的評価がなされる傾向が強くなっており、多くの若手研究者がそうした方向での研究へとシフトせざるを得ない状況になりつつあります。果たして、われわれ経営学研究者はそうした傾向をそのまま是と容認してもよいものなのでしょうか。経営現象の根底にある理論や歴史、学説といった

基礎領域への関心が薄くなってしまっているのではないのでしょうか。こうした事態を打開し、学術の健全な発展へ向けるために、われわれは何をどうしてゆけばよいのでしょうか。

当分科会ではこうした問題意識をもとに、経営学分野における研究業績の在り方はいかにあるべきかについて、各分野の専門家が参集し、数年間にわたり真摯な議論を重ね、それを最終的に取り纏めたものが当該報告書であります。

研究業績評価の在り方は、広義の経営学のいずれの領域に属する学界人にとっても重要な課題です。学術の次代を担う若手研究者の育成にとっても無視できない重要課題であることは言を俟ちません。当シンポジウムの具体的なコンテンツや登壇者につきましては目下調整・検討中ですが、協議会所属の各学会におかれましては、ぜひ当シンポジウムにご期待をいただき、ご参加いただきますよう理事長としてお願い申し上げます。プログラムの詳細がまとも次第、協議会のホームページやメール等を介して改めてご案内をさせていただきます。

当協議会が取り組むべき課題は他にも山積しておりますが、ひとまず全加盟学会にとりまして重要度が極めて高いと思われるシンポジウムの企画が目下進行中であることをお伝え致しまして、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 【Ⅱ ニュース】

### ◆ 電子版英文ジャーナル

経営関連学会協議会では、電子版英文ジャーナル *Journal of Japanese Management (JJM)* を 2016 年から年に 2 回（5 月、11 月）のペースで発行しています。経営関連学会協議会のウェブサイト (<http://www.jfmra.org/jjm/>) に電子公開されており、「学術雑誌規程」「投稿論文審査規程」「編集委員会規程」「執筆細則」も掲載されております。

JJM の目的は、経営関連学会協議会関係者の論文を海外発信することであり、加盟する構成学会の会員は、JJM に投稿することができます。このほかに、学会推薦論文、国際会議発表論文の投稿も可能となりました。3つのカテゴリーの研究論文は査読の結果により掲載の可否が決定されます。

2021 年は 5 月に通算して第 10 号となる Vol.5 No.2 を発刊し、11 月には第 11 号となる Vol.6 No.1 を発刊いたしました。

*Journal of Japanese Management* Vol.6, No.1

<目次>

Satoko Uenishi, Strategic Reconfiguration of Transactions in the Japanese Manufacturing Industry: A Case Study of Quantifying the Processing Designed by a Supplier

Recommended Paper by Japan Cost Accounting Association

Yutaka Shoji, The Effect of Feedback Control and Feedforward Control on Organizational Performance: A Simulation Analysis Using NK Model

## 【Ⅲ 活動報告】

### ◆ 公開シンポジウム・講演会

経営関連学会協議会では、例年、理事会と評議員会の日程に合わせて、講演会あるいは公開シンポジウムを開催しております。2021年はコロナ禍のため理事会・評議員会ともにオンライン開催でしたので、公開シンポジウムと講演会のいずれもオンラインで開催しました。例年ならば、イベント開催後は恒例となっております懇親会で、講師の先生方との懇談や会員相互の懇談ができるのですが、2021年度は残念ながら懇親会は叶いませんでした。しかしオンライン開催によるメリットとして、開催地東京から離れてお住いの先生方からもご参加いただけたので、シンポジウムと講演後の質疑応答は活発に行われました。

講演会とシンポジウムの要旨は、経営関連学会協議会のホームページに掲載しておりますのでご覧ください。（経営関連学会協議会 HP⇒イベント⇒報告・記録）

以下が開催されました公開シンポジウムと講演会です。

---

### 1. 公開シンポジウム

日 時：2021年10月17日（日）13時30分～16時30分  
オンライン開催（Zoom）

テーマ：「フリーランスとギグワーク：可能性を広げる働き方の検討」

講師： ① 石山 恒貴氏（副理事長補佐・法政大学）  
② 平田 麻莉氏（プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会  
代表理事）  
③ 檜山 敦氏（東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授）  
④ 藤本 崇氏（ストリートアカデミー株式会社 代表取締役 CEO）

司会 石山 恒貴氏  
開会の辞 上林 憲雄 経営関連学会協議会理事長  
閉会の辞 上林 千恵子 経営関連学会協議会副理事長

### 2. 公開講演会

日 時：2021年3月27日（日）14時～15時30分  
オンライン開催（Zoom）

テーマ：「人権・安全保障・ウクライナ～米中対立と日本企業」

講師： 神子田 章博 氏 NHK 解説主幹

司 会 上林 千恵子 経営関連学会協議会副理事長  
開会の辞 上林 憲雄 経営関連学会協議会理事長  
閉会の辞 上林 千恵子氏

#### ◆ 加盟学会の全国大会情報の提供

経営関連学会協議会では、加盟学会の全国大会の日程・会場・テーマをカレンダー形式で取りまとめ、ウェブサイトで公表しております。

縮小版： トップページ 右側・中段

拡大版： <http://www.jfmra.org/societies/conventions.html>

(トップページ→「全国大会一覧」)

<加盟学会へのお願い>

上記のカレンダーに情報を掲載いたしますので、全国大会の日程・会場・テーマが決定されましたら、経営関連学会協議会事務局 (E-Mail: [info@jfmra.org](mailto:info@jfmra.org)、FAX: 03-6745-9668) までご連絡をいただきますよう、お願いいたします。

#### 【IV 決算・予算】

2021年度の決算書と財産目録及び監査報告書並びに2022年度予算書は次のとおりです。

## 2021年度 収 支 決 算 書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位：円)

	予算額	決算額 (執行状況)	差異	
<b>I 収入の部</b>				
会費収入	当年度 1,650,000	1,560,000	△ 90,000	(52学会)
	過年度 420,000	270,000	△ 150,000	(7学会9年分)
	翌年度 0	0	0	
論文掲載料収入	50,000	10,000	△ 40,000	(1組1本)
受取利息収入	10	3	△ 7	
雑収入	0	0	0	
当期収入合計	2,120,010	1,840,003	△ 280,007	
<b>II 支出の部</b>				
事務局費	20,000	17,446	△ 2,554	
事務運営費	150,000	66,000	△ 84,000	
HP運営・事務局業務委託費	396,000	396,000	0	
ニューズレター作成費	0	0	0	
理事会費	100,000	0	△ 100,000	
役員交通費	210,000	40,700	△ 169,300	
評議員会費	100,000	0	△ 100,000	
委員会費	0	0	0	
シンポジウム・講演会等開催費	311,000	164,000	△ 147,000	
英文ジャーナル発刊費	300,000	40,000	△ 260,000	
開催・派遣・招聘補助費	200,000	0	△ 200,000	
法人化準備費	100,000	0	△ 100,000	
予備費	100,000	0	△ 100,000	
当期支出合計	1,987,000	724,146	△ 1,262,854	
当期収支差額	133,010	1,115,857	982,847	
前期繰越額	4,214,159	4,214,159	0	
次期繰越額	4,347,169	5,330,016	982,847	

## 財 産 目 録

(2022年3月31日現在)

(単位：円)

財産種目	金 額
<b>財産の部</b>	
1. 手許現金	0
2. ゆうちょ銀行口座	内訳
(1) 通常貯金	580,016
(2) 払込口座	4,750,000
	5,330,016
合 計	5,330,016

## 監査報告書

経営関連学会協議会 理事長 殿

私どもは、経営関連学会協議会の2021年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の収支決算書及び財産目録を預金通帳及びその他の書類に基づいて監査いたしましたところ、収支の状況を適正に表示しているものと認めましたので、ご報告申し上げます。

2022年 5月 30日

監事 古庄 修 

監事 降籟 徹馬 

## 2022年度 収 支 予 算 書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

		前年度	当年度	差異
<b>I 収入の部</b>				
加盟学会会費収入	当年度	1,650,000	1,680,000	30,000 (56学会)
	過年度	420,000	180,000	△ 240,000 (3学会6年分)
	翌年度	0	0	0
論文掲載料収入		50,000	0	△ 50,000
受取利息収入		10	10	0
雑収入		0	0	0
当期収入合計		2,120,010	1,860,010	△ 260,000
<b>II 支出の部</b>				
事務局費		20,000	20,000	0
事務運営費		150,000	150,000	0
HP運営・事務局業務委託費		396,000	396,000	0
ニューズレター作成費		0	0	0 (必要があれば予備費から支出)
理事会費		100,000	70,000	△ 30,000
役員交通費		210,000	210,000	0
評議員会費		100,000	70,000	△ 30,000
委員会費		0	0	0 (必要があれば予備費から支出)
シンポジウム・講演会等開催費		311,000	360,000	49,000
英文ジャーナル発刊費		300,000	300,000	0 (査読料/J-Stage対応Web費用等)
開催・派遣・招聘補助費		200,000	150,000	△ 50,000
法人化準備費		100,000		△ 100,000
予備費		100,000	100,000	0
当期支出合計		1,987,000	1,826,000	△ 161,000
当期収支差額		133,010	34,010	△ 99,000
前期繰越額		4,214,159	5,330,016	1,115,857
次期繰越額		4,347,169	5,364,026	1,016,857